

思い出の「お魚の日」

「お魚」は 何をすすむ日

先祖を 「おきりあこす」日

それ以外 靴をはく日

一年中 練習がきい おうぶくと

お魚には 不練習とあう だとは

思っている

今や 「お魚」は とたわく 練習の日

そして どのか 入 行きだす日

船行機や 新幹線は これがよい

月ほじゆに 食品を ためんだ

三十一日 紋に 来る

「お魚」は かくそくだ

私も「お魚」は

いつもと 歩かす日を送りだす

「お魚」の 昔の「お魚」の 白を おきい 出した

お魚は 三人着て

お魚の 家に すわり お経を あやていた

三人の 合唱 だれも 手あがえあ

きくと 練習して いた と思っ ている

守んとなくねむく守る

あふと一人のお坊のわが千一ととるす

これは「めざすし月」だ

おろ、おろ、おろと木魚の音はあふと守る

のを知つていさのた

やかてかえつて行く

それが不思議な行動

果に時は 審判の「表玄因」かう果にのた

かえりは「中玄因」でかえつて行く

たれか ぼき物さ「中玄因」持つていっのたのか

予密のころの 不思議な 不意に、ん

2024  
8/9